

「がん検診」を受けましょう



小郡市では、特定健康診査をはじめ、肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検診を行っています。

今回は、がん検診の目的や、女性特有のがん検診についてご案内します。

1 がん検診の目的は？ —治療・救命までが がん検診—



がん検診の目的は、がんを見つけることだけではありません。検診の対象となる人たちの死亡率を低下させることが、がん検診の目的です。

いくらがん発見率の高い検診を受けても、治療効果のないがんや、治療する必要のないがんがたくさん見つかったとしても、死亡率低下の効果はありません。

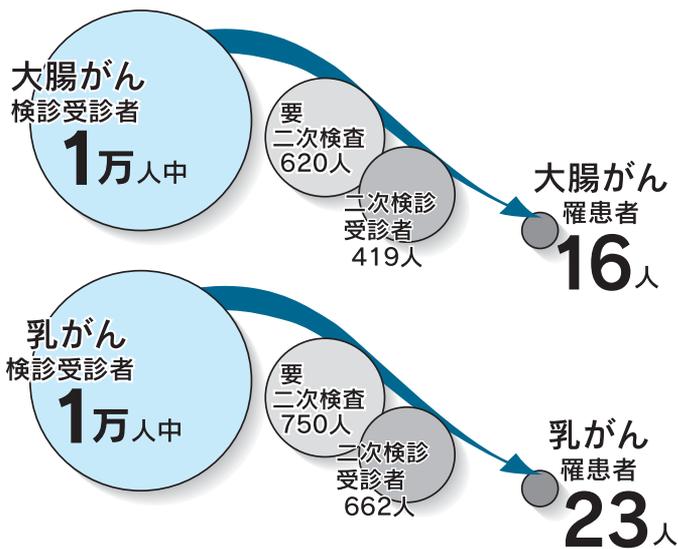
これまでの研究の成果によって、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん、大腸がんの5つのがんは、それぞれ特定の方法で行う検診を受けることによって早期に発見でき、さらに治療を行うことで死亡率が低下することが科学的に証明されています。

早期で見つければ、がんは決して怖い病気ではありません。「精密検査が必要」と判定されたら早期がんを見つ

けられるチャンスと捉え、自分のため、そして心配してくれる周りの人のためにも、精密検査を受けるようにしましょう。

2 がん検診でがんが見つかる人の割合は？

二次検診を受ける必要のある人、
がんが見つかる人の割合



一次検診、もしくは精密検査で「異常あり」と判定された場合、「がんではないか」と怖く感じる人もいるかもしれませんが、最終的にがんと診断される人がそれほど多くないことも知っておいてください。

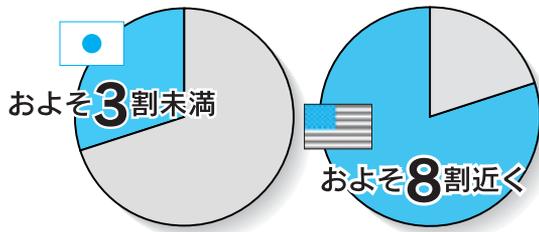
大腸がん検診、乳がん検診をそれぞれ1万人ずつ受診すると、大腸がんでは620人、乳がんでは750人が一次検診で「異常あり」と判定される割合になります。

しかし、大腸がんでは約200人、乳がんでは約90人が精密検査を受けずに済ませてしまいます。精密検査を受けた人からは、それぞれ大腸がんが16人、乳がんが23人見つかります。

「異常あり」と判定されてもそれがすぐにがんに結びつくわけではないことはおわかりいただけると思います。

3 がん検診受診率とがん死亡率

日本とアメリカの検診受診率



欧米では、がんによる死亡が頭打ち、もしくは減少してきています。特にアメリカでは、1970年代からの国を挙げての取り組みにより、90年代前半からがんによる死亡が減少に転じています。

一方、日本では依然、増加傾向が続いています。日本とアメリカの医療のレベルはそんなに変わらないのに、一体なぜこんな違いがあるのでしょうか。

ひとつにはがん検診の受診率の違いとも言われています。日本のがん検診受診率は、3割に満たないと言われ

ています。しかし、アメリカの受診率は8割近くにのぼります。

もちろん検診だけでなく、食べ物への配慮や、禁煙への意識を高めるといったことも重要です。

4 科学的な根拠に基づいた検診

医療では、研究を通して科学的に証明された手法がもっとも客観的で優れているということで、「科学的根拠に基づいた医療 (EBM: Evidence-Based Medicine)」を取り入れる動きが国際的に活発になっています。

科学的に有効と証明されたがん検診

対象臓器	効果のある検診方法
胃	胃X線検査
子宮頸部	子宮頸部細胞診
乳房	視触診とマンモグラフィ(乳房X線)の併用
肺	胸部X線とハイリスク者に対する喀咳細胞診の併用
大腸	便潜血検査 大腸内視鏡

胃がんや肺がんなどでも、表にあるもの以外の方法で行う検診や、子宮体がん、甲状腺がん、肝胆膵腎がん(肝炎ウイルス・キャリア検査を除く)などの検診は、死亡率が減少するというには十分な研究が発表されておらず、今のところ効果があるかどうか不明だったり、有効であってもデメリットが大きかったり、あるいは効果がないことが示されています。

日本のがんの死亡率を下げていくためには、治療の進展と検診の拡充、生活習慣の改善の三つの柱が重要になります。検診の拡充という点では、まずは科学的に効果が検証されたがん検診を普及させて受診することが重要です。

(出典：公益財団法人日本対がん協会)

小郡市総合健診のご案内

今年度の日程も残り少なくなりました。早めに予約して「がん検診」を受診しましょう。

期 日	受付時間	会 場	ご 注 意
9月21日(水)	午前8時30分 ～ 午前11時00分	総合保健福祉センター 「あすてらす」	※ 要予約 ※ ☎72-6682 ☎80-2524
22日(木)			
25日(日)			
10月2日(日)			
3日(月)			

◎問い合わせ先 健康課 (総合保健福祉センター「あすてらす」内)

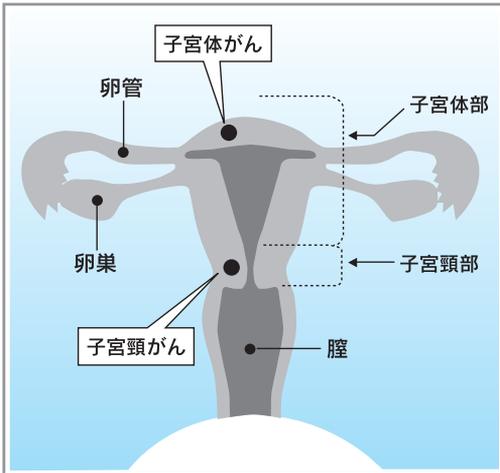


子宮と子宮がん

子宮がん細胞の増殖はゆっくりとされています。定期的に検診を受けて細胞診を行えば、がんになる前の段階で診断することができます。



1 子宮の構造と子宮がん



子宮は、受精して着床した卵が出産するまで赤ちゃんを成長させる器官です。骨盤に守られるように女性の下腹部にあり、洋梨を逆さまにしたような形をしています。

膣につながる外子宮口が洋梨の頭の部分にあたり、そこから子宮頸部、赤ちゃんができると出産までとどまる部分が子宮体部になります。子宮の中で、洋梨の底にあたる部分に内膜があります。

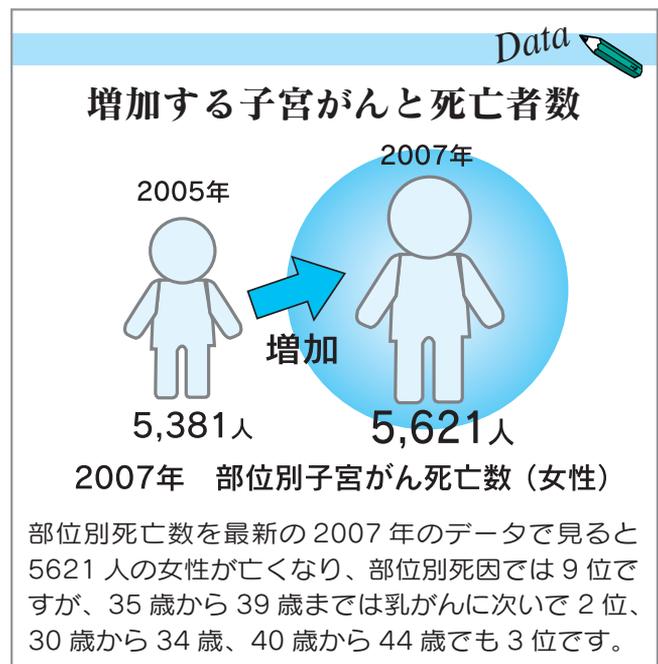
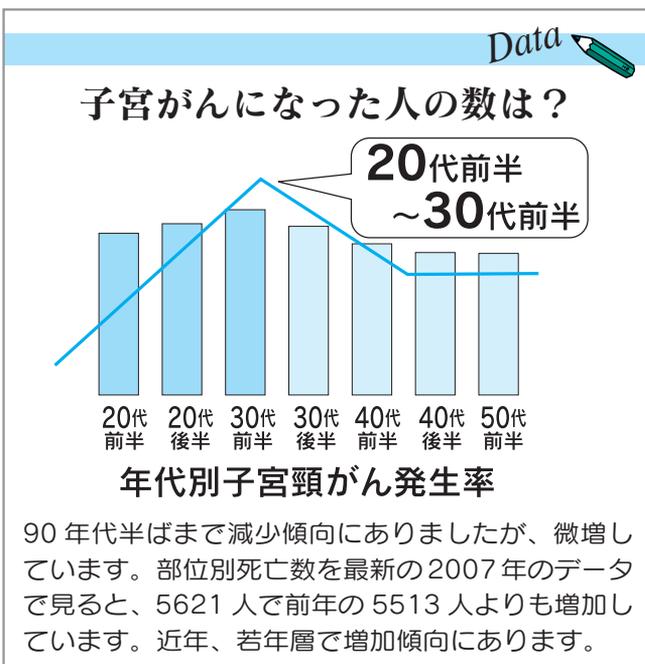
子宮がんには、がんができる場所とがんの種類が異なることから、「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2種類に分けて考えられています。

子宮頸がんが多く発生するのは、子宮頸部の入り口である外子宮口のあたりです。がん細胞の増殖はゆっくりで、正常

でない細胞が浸潤がんになるのに2～3年かかるとされています。そのため、定期的に検診を受けて細胞診を行えば、がん細胞が見つかる前に正常でない細胞を見つけ、がんになる前の段階で診断することができます。

子宮体がんは、「子宮内膜がん」とも言われるように、子宮内膜に多く発生します。内膜は生理のときにははがれてしまうので、閉経前に子宮体がんが発生することはまれだと言われています。年齢別にみた発生率(罹患率)は、40歳代後半から増加して50歳代から60歳代にピークを迎え、その後減少しています。

2 罹患数（子宮がんになった人の数）と死亡数のデータ





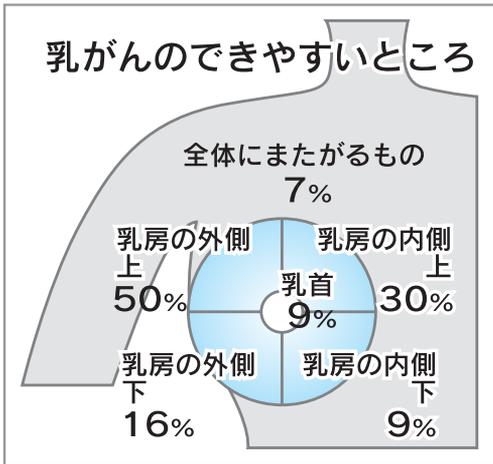
女性特有のがんの基礎知識

乳房と乳がん

乳がん検診は、無症状のうちに検診を受診した人では、早期の乳がんが発見される可能性が高く、その段階で治療すれば、治療の経過は良好です。



1 乳がんが発生しやすい場所



乳がんが発生しやすい場所としては、乳首を中心に乳房を4つに分けると、一番多いのは乳房の外側の上の方（全体の50%）、次いで内側の上（30%）、外側の下（16%）、それから乳首付近（9%）、最後に内側の下（9%）の順です。

また、多くは乳管で発生する乳管がん、乳腺小葉で発生する小葉がんが続きます。このほかに特殊な型の乳がんがありますが、あまり多くありません。

なお、乳がんは女性のがんというイメージが強いですが、まれに男性にも発生します。女性と比べて予後（治療の経過）が悪いことが知られています。

注）2部以上にまたがる症例があるため、合計は100%を越える。

出典：聖マリアンナ医科大乳腺・内分泌外科データ

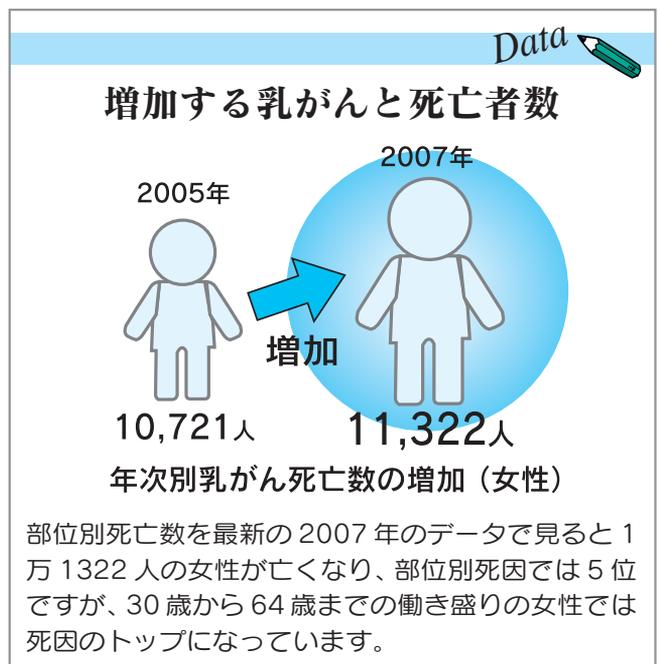
2 罹患数（乳がんになった人の数）と死亡数のデータ

Data

乳がんではなくなる人の数は？

順位	部位	人数
1位	大腸	19,003人
2位	肺	17,917人
3位	胃	17,446人
4位	膵	11,594人
5位	乳房	11,322人

部位別死亡数を最新の2007年のデータで見ると、1万1322人で5位です。特に65歳以下の比較的若い世代で、女性のがんによる死亡の1位になっています。



女性特有のがん検診のおすすめ

小郡市では、総合健診をはじめ、小郡三井医師会のご協力を得て、指定医療機関での子宮頸がん検診、乳がん検診を行っています。詳細については、小郡市の広報紙やホームページでご確認ください。

◎問い合わせ先 健康課健康推進係 ☎ 72-6666